

第2次山梨市水道ビジョン

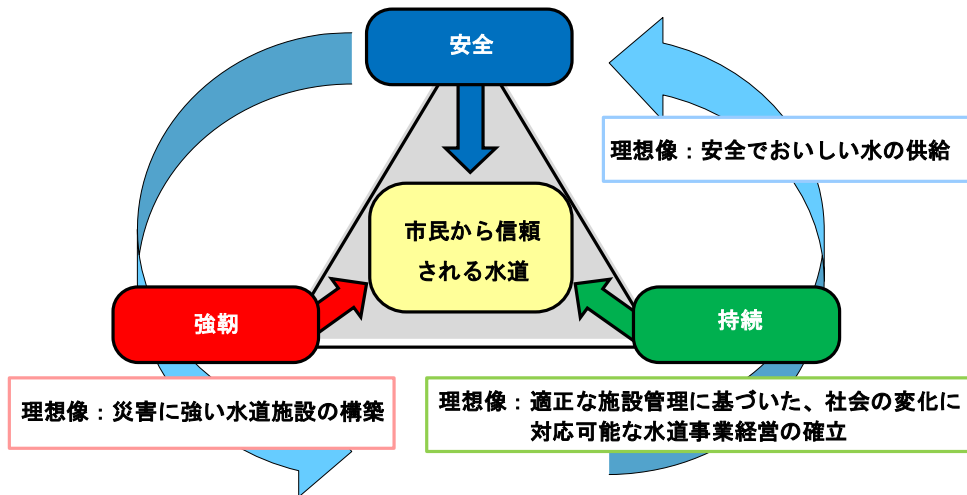
～市民から信頼される安全・強靱で持続可能な水道を目指して～

平成28年3月

1. 第2次山梨市水道ビジョンの策定にあたって

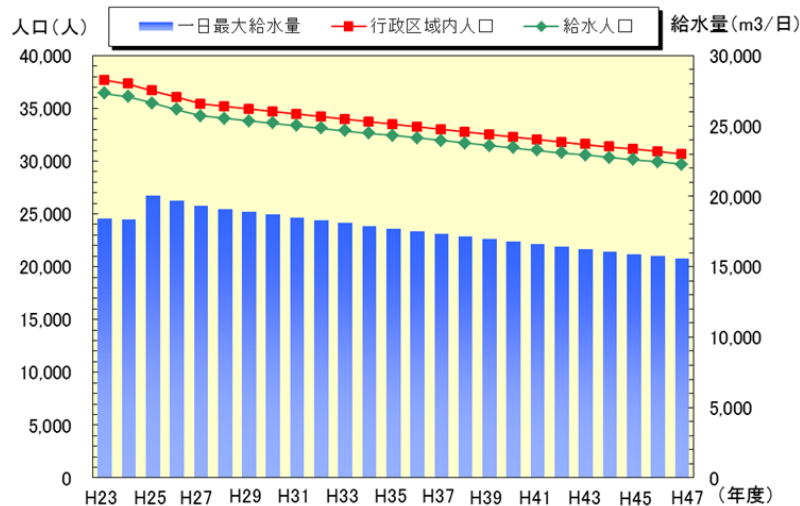
第2次山梨市水道ビジョンは、厚生労働省が策定した新水道ビジョンを踏まえて、「**市民から信頼される安全・強靱で持続可能な水道を目指して**」を水道ビジョンのスローガンに掲げ、「安全」、「強靱」及び「持続」の3つを施策課題と位置づけ、今後の水道事業に取り組んでいきます。

山梨市では以下に示す水道事業の将来像へ向け、現状を分析・評価し、中長期的な視点により将来を見据えた具体的な施策を推進していきます。



2. 将来の水需要

山梨市における将来の水需要は、以下に示すとおり給水人口、給水量共に年々減少していく見込みです。



平成24年度	行政区域内人口：37,298人	平成39年度	行政区域内人口：32,517人
	給水人口：36,110人		給水人口：31,483人
	一人一日平均給水量：411 ㎡/人・日		一人一日平均給水量：405 ㎡/人・日
	一日最大給水量：18,349m ³ /日		一日最大給水量：16,969m ³ /日

第2次山梨市水道ビジョン

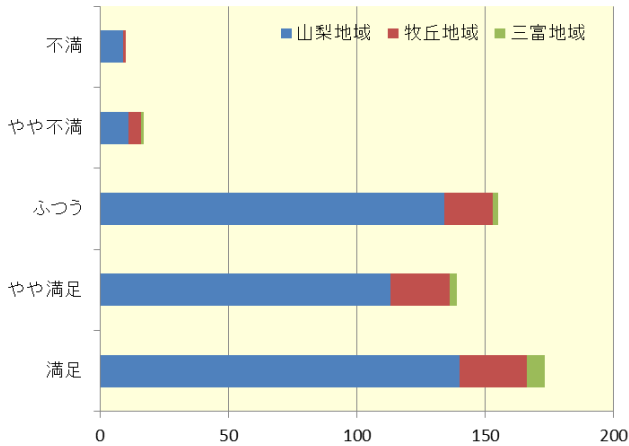
～市民から信頼される安全・強靱で持続可能な水道を目指して～

3. 住民アンケート

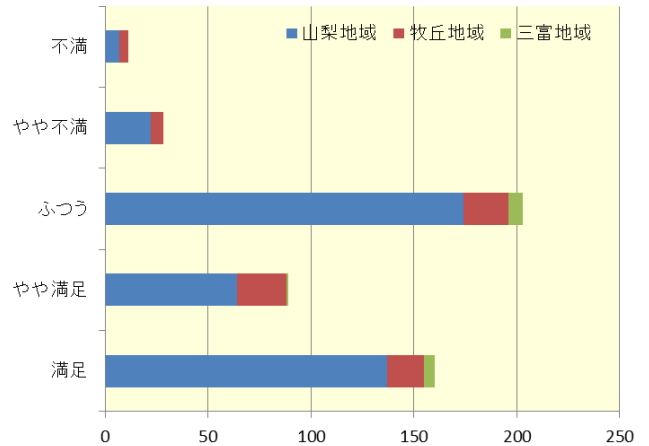
山梨市水道事業の将来像を設定するために、利用者に対してアンケート調査を実施しました。

水道水に対する満足度を調査したところ、比較的満足度が高い項目は、安全性、にごり・色、水の出具合で、比較的満足度が低い項目は、料金でした。また、他の公共料金に比べて「やや高い、高い」が回答数の半数以上となりました。

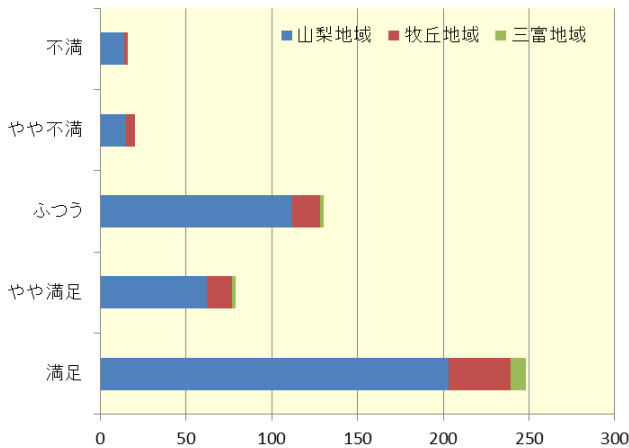
【問】「安全性」に対する満足度



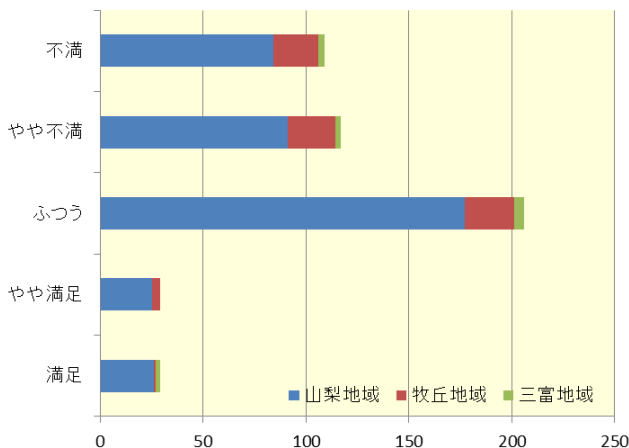
【問】「にごり・色」に対する満足度



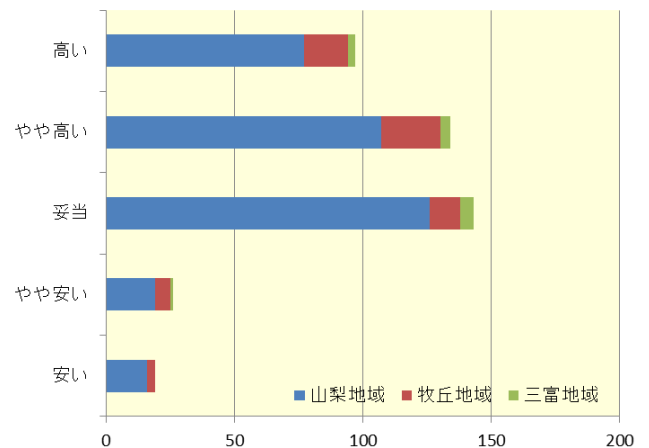
【問】「水の出具合」に対する満足度



【問】「水道料金」に対する満足度



【問】「他の公共料金(電気、ガス)」との比較



第2次山梨市水道ビジョン

～市民から信頼される安全・強靱で持続可能な水道を目指して～

4. 水道事業が抱える課題

山梨市水道事業における課題点は以下に示すとおりです。

分類	現状	課題	目的
安全	原水水質に懸念があります。	水源の廃止 新規水源の確保	経営の安定化
	耐久性に劣る銅製給水管がわずかに残存しています。	銅製給水管の布設替え	
強靱	水道施設の耐震化が不十分で、大きな地震に耐えられか不安な状況にあります。	水道施設の耐震化	
	大野水源が重川の浸水想定区域に位置するため浸水による水道機能が停止する可能性があります。	施設整備の見直し	
	一部の施設において侵入防止対策が十分でない施設があります。	侵入防止対策の強化	
	水源施設の老朽化及び機械電気設備の劣化が進行しています。	施設の更新	
持続	企業団受水のうち1450m ³ /日程度を優先的に活用できていません。	施設整備の見直し	
	健全な経営に向けて適正な財政体制の確保が求められています。	適正な財務体制の確保	
持続	熟練職員の退職に伴い技術の継承が必要です。	計画的な人材育成	

5. 推進する実現方策

課題点における原因を改善し、山梨市水道事業の将来像「**市民から信頼される安全・強靱で持続可能な水道を目指して**」に向けた実現方策を推進します。

(1) 安全な水道

- 原水水質の管理
水質検査計画に基づき適切な頻度で原水及び給水栓の水質検査を実施し、安全な水質を維持していきます。
- 水安全計画の策定
水質検査計画と整合のとれた、高レベルの管理水準が確保可能な水安全計画を策定し、適切な水質管理に取り組んでいきます。
- 指定給水工事業者に対する指導の継続実施
工事業者に対して的確な指導を実施して水道工事水準を維持し、給水装置の不適正な使用ゼロを継続します。
- 銅製給水管の布設替え
残存する耐食性に劣る銅製の給水管を必要に応じ更新を図り、早期に銅製給水管残存数ゼロを達成します。

(2) 強靱な水道

- 応急給水・復旧体制の強化
大規模災害を想定した備蓄計画を策定し、災害の実態に即した資機材の確保、近隣事業者や地域住民との災害時の連携など、内容をより充実させ、応急給水・復旧体制の強化に努めていきます。

第2次山梨市水道ビジョン

～市民から信頼される安全・強靱で持続可能な水道を目指して～

○ 水道施設への侵入防止対策の強化

水道施設への悪質な不法行為（器物及び施設の破壊、水道水への毒物の投入、設備の無断操作など）への対策として、下記の3つの整備を実施し、侵入防止対策の強化を図ります。

【 外周フェンスの継続的な整備 】、【 侵入検知センサーの導入 】、【 水道施設監視システムの更新 】

○ 災害時の協力体制の強化

近隣市町村との合同での研修会、訓練を行うと共に、水道事業の広域化についても検討を進め、更なる連携・強化を図っていきます。

○ 基幹施設の耐震化

地震による水道施設の被害を最小限にとどめるために、本市では水道施設の耐震化に取り組みます。

○ 管路の計画的更新

管路の更新には膨大な費用と期間が必要になるため、避難所や医療施設等へ接続されている重要なルートに埋設されている配水管を優先的に耐震化します。また、地震発生時に被害を受ける可能性がある管路や老朽管路の更新を計画的に実施して管路施設の耐震性向上に努めます。

○ 浸水対策の強化

大野水源が、重川の堤防が決壊した際の「浸水想定区域」に位置するため、被災した際には、今後、建設する市川浄水場の水や企業団受水の余剰水を活用できる施設整備を進めていきます。

(3) 水道サービスの持続

○ アセットマネジメント（資産管理）の実施

給水収益の減少に対し、的確に対応するために、アセットマネジメントに基づく合理的な施設更新計画を策定し、その後計画的に更新を進めていきます。

○ 積極的な広報活動

水道事業をより理解していただくための情報について検討するとともに、ページの構成やリンクの配置などについてお客さまへ分かりやすく情報をお届けします。

○ 水道事業の継続性の確保

組織体制の見直しや職員の技術力、知識など業務遂行能力の向上を図り、これまで以上により効率的に事業に取り組んでいきます。官民連携を推進します。

○ 技術の継承

熟練職員の退職や水道課職員の水道業務経験年数の短さに起因した技術レベル低下が懸念されますが、研修やOJTにより水道技術の継承を図ります。

○ 中長期的な財政見直し

将来にわたり、安全で安心な水道水を供給するための健全な経営を引き続き実施していくためには、中長期的な財政見直しのもと、適切な料金体系へ改める必要があるため、早急に「経営戦略」を策定し経営の安定化を図っていきます。

6. フォローアップ

本水道ビジョンで策定された計画は、事業の進捗状況に応じてフォローアップし、社会環境の変化や技術革新に柔軟に対応するよう、適宜見直しを図ります。